

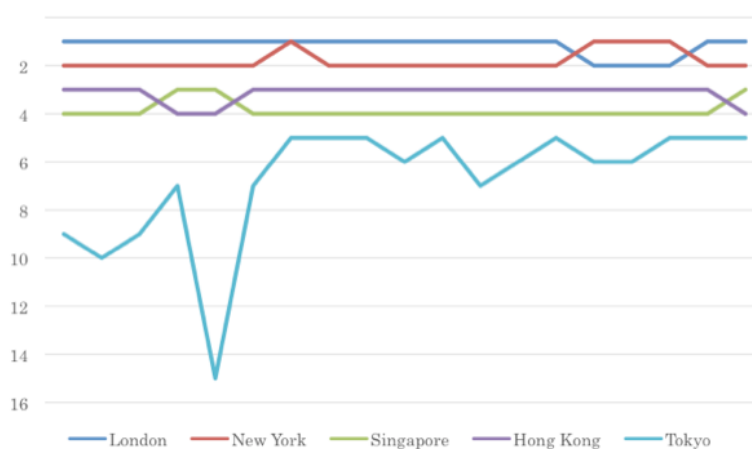
東京金融市場のアジアにおける競争性（趣旨）

長崎大学 須齋正幸

これまでの東京金融市場の国際的な役割を振り返ると、1980年代の「日米円・ドル委員会」以降、預金金利の自由化をはじめとする規制緩和が進められ、ニューヨーク、ロンドンに次ぐ、アジアにおける国際市場としてその役割を果たしてきた。しかし、1990年代のバブル経済崩壊後、その国際金融市場としての評価は、これらの市場と比較すると相対的に低迷し、1996年には日本版ビックバンが実施され、その後、金融再生プログラムの開始をはじめとして金融・資本市場のグローバル化のための政策が継続して実施されてきた一方で、シンガポールや香港などのアジアの金融市場の台頭とは対照的な状況が続いてきた。

このような背景のもと、近年、日本の経済を牽引する原動力として、また高齢化社会における資産形成方法の多様化に資するためにも、東京金融市場を国際金融センターとして機能強化するための準備が精力的に進められてきた。しかしながら、世界の金融市場の評価、ランキングを年2回発表している **Global Financial Centre Index** によると、以下のグラフにあるように、東京市場はロンドン、ニューヨーク、シンガポール、香港に次いで直近の評価では第5位となっている。アジアにおいては二つの市場の後塵を拝しているという評価である。ビジネス環境や人的資源、インフラストラクチャーの他、金融セクターの現状や市場自体の信頼も下位に評価されている。TheCityUK から発表されている”Key Fact about The UK as International Financial Centre”では、国際性ではこれら二市場よりも下位に評価されており、ロンドンとニューヨークがグローバル市場に区分されているが、東京は他の二市場に上海とソウルを加えたアジアの地域ハブ市場として区分されてい

国際金融市場ランキングの推移(Z/Yen)



る。クロスボーダーの銀行貸出やデリバティブの取引量ではシンガポールや香港を凌駕しているが、市場の評価には繋がっていない点に重要な課題が隠れているように思われる。

官民、様々な会議などで東京の国際市場に向けての論点がまとめられているが、

東京は大きな経済力と豊富な金融資産を背景としている点ではニューヨークに類似し、香港（中国経済を背景）とはこの観点では競合するものの、アジアにおいては相対的に優位に立っていると評価されよう。また税制や諸規制の緩和なども進められてきているが、ビジネス環境や人的資源を含むインフラストラクチャーの整備は、これまでも常に課題と指摘されてきており、現時点でも依然として課題として残っているように思われる。

本セッションでは、東京を含む国際金融市場で豊富な実務経験を有するスピーカーを日英から招待し、その経験をもとにこのテーマで議論すべき論点を提示して頂く。金融庁、学会より討論者をお招きし、これらの論点について、それぞれ専門的観点からご議論頂き、東京国際金融市場のアジアにおける競争性の本質的課題を整理する。